

みよし市単独で火葬場を整

私たちにとって火葬場は、生活をする上で誰もが利用し、大切な人の死を受け入れ、見送り、故人との最後のお別れをする、必要不可欠で大切な施設です。

高齢化に伴う死亡数の増加に伴い近年、都市部では火葬件数の増加によって火葬場がひっ迫し、何日も火葬ができない「火葬待ち」が大きな問題となっています。本市における死亡数も年々増加しており、市民の皆さんが主に利用する豊田市の古瀬間聖苑こせませいえんにおいても、火葬の申し込みが多くなる

古瀬間聖苑の現状

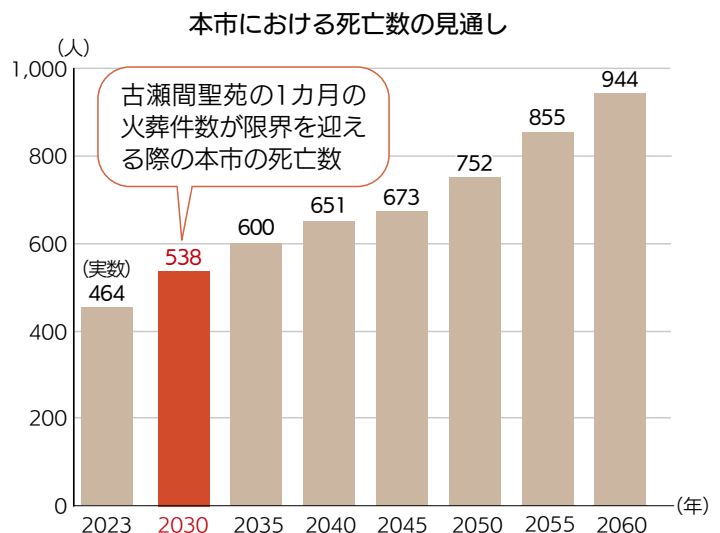
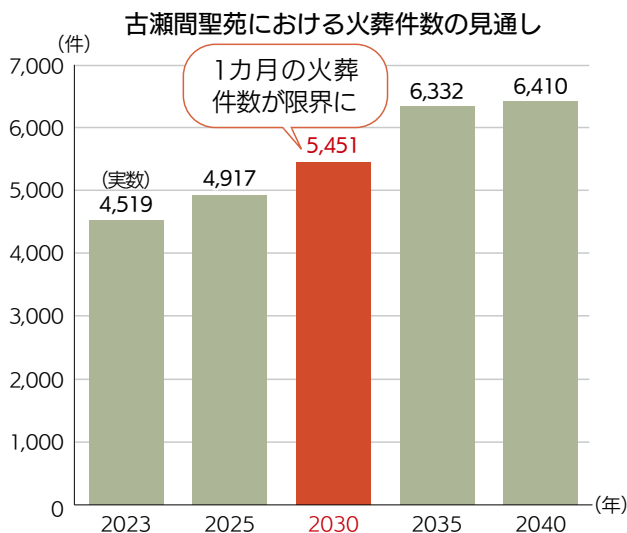
本市における年間死亡数は年々増加しており、将来人口推計などのデータに基づくと、今後も死亡数は増加する見通しです。過去に本市で亡くなった人のうち約94%は古瀬間聖苑を利用しており、残りの6%はその他の火葬場を利用しています。

現在、多くの市民が利用している古瀬間聖苑は、平成元(1989)年に建設されたものです。古瀬間聖苑に設置されている大人用の火葬炉12基は、1基当たり1日2件の火葬を想定して設計されており、1日当たり最大24件の火葬能力があります。死亡数の増加に伴い、古瀬間聖苑の利用件数も年々増加しており、火葬の申し込みが集中する冬の時期には、現在でも古瀬間聖苑において1日24件を超える申し込みによって火葬待ちが発生しています。また、火葬待ちが発生すると次の火葬待ちが連鎖的に発生する状態が生まれてしま



古瀬間聖苑の炉前ホール

い、火葬待ちが続くとしばらくの間遺体を安置しなければなりません。古瀬間聖苑では、今後年間の火葬件数が約5,400件を超えてくると、申し込みが多くなる冬季には、常に火葬待ちが発生してしまう状態になると想定されています。



備する方針を決定しました

～将来にわたって安定した火葬を提供するために～

企画政策課 ☎32-8005 📠76-5021

冬の時期には1日の火葬件数の上限を超える日が発生しています。市民の皆さんが火葬待ちの影響を受けることなく、落ち着いて亡くなった人を見送ることができるように、また本市として責任を持って、将来にわたって安定した火葬を提供できるように、本市単独で火葬場を整備する方針を決定しました。

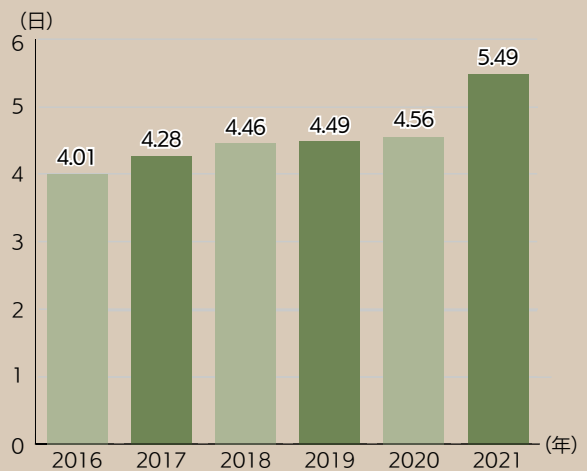
今回は、本市単独で火葬場を整備するに至った経緯についてお知らせします。

都市圏では長期の火葬待ちが発生

神奈川県横浜市では死亡数の増加に伴い火葬件数が増加し、火葬待ちの日数が年々長期化しています。増え続ける火葬需要に、市民優先枠の設定や新たな斎場の整備を計画するなどの対応をしています。

千葉県の柏市・流山市・我孫子市の3市で運営する斎場では、令和4(2022)年に火葬待ちの期間が最大で17日に及びました。遺族にとって、長期の火葬待ちには精神的な負担となります。また、遺体を保管するための費用の追加などの問題も発生してきます。このような状況は首都圏のみにとどまらず、今後全国に広がっていくと考えられています。

横浜市営斎場の火葬待ち日数(横浜市資料)



やごとさいじょう 名古屋市の八事斎場の再整備

名古屋市天白区にある八事斎場は、施設の老朽化や大規模災害への対策などから、令和7(2025)年度から令和10(2028)年5月にかけて稼働を停止し、再整備を計画しています。名古屋市では、名古屋市民の火葬に影響が出ないように、港区にある第二斎場の稼働日数や1日当たりの火葬件数を増やすとともに、市民優先制度を導入して対応する予定です。

古瀬間聖苑でも令和7(2025)年度から豊田市民とみよし市民を対象として市民優先枠を導入する予定です。詳しくは、市政ニュース12ページをご参照ください。

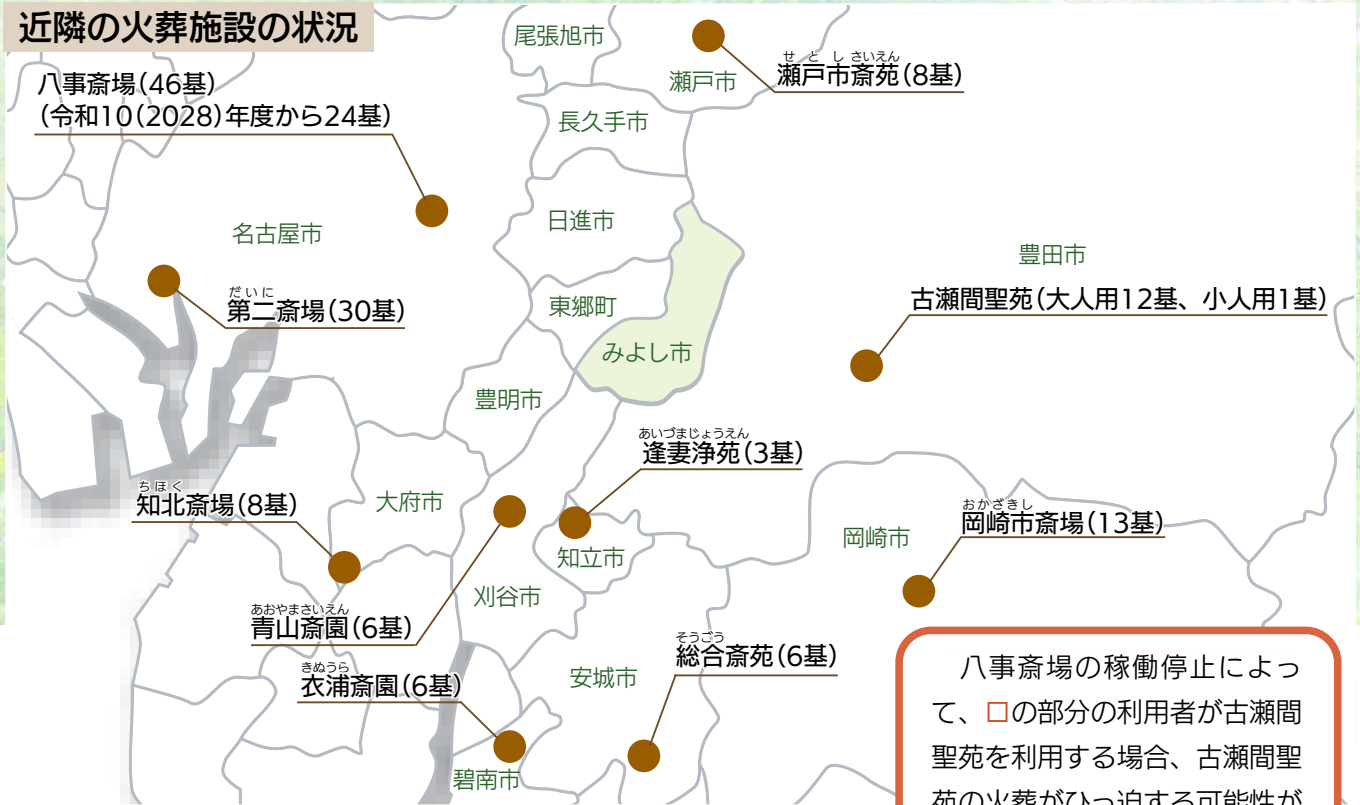
新しく整備される八事斎場

八事斎場の再整備計画では、施設全体を周辺の風景に溶け込むように配慮してデザインするとともに、大規模災害に対応するための設備や高度な排ガス処理設備の導入、プライバシーを確保できる告別収骨室の設置などが計画されています。近年の葬送習慣の変化に対応しつつ、これまでの火葬場のイメージとは異なる雰囲気施設の設計画となっています。



八事斎場の外観イメージ

近隣の火葬施設の状況



尾三地区火葬許可証発行件数 (令和4(2022)年度)

施設名	みよし市	豊明市	長久手市	東郷町	日進市
古瀬間聖苑 (豊田市)	498件(96%)	5件(1%)	1件(1%)	78件(22%)	38件(5%)
八事斎場 (名古屋市)	14件(2%)	236件(30%)	174件(44%)	217件(61%)	596件(82%)
第二斎場 (名古屋市)	2件(1%)	75件(9%)	17件(4%)	18件(5%)	45件(6%)
その他	3件(1%)	465件(60%)	203件(51%)	45件(12%)	46件(7%)
合計	517件	781件	395件	358件	725件

火葬場の在り方を考える

これらの状況から、市としては古瀬間聖苑の現状や八事斎場の再整備などを踏まえ、本市における火葬場の在り方について、早期にとりまとめる必要があると考えました。そこで、市民向けに火葬場についての講演会を実施し、本市を巡る火葬場の現状を伝えるとともに、市民アンケートで皆さんの意見を伺いました。アンケートでは「市単独で火葬場を持った方が良い」という意見や「隣接する複数の自治体での共同運営が合理的だ」「古瀬間聖苑を引き続き利用できることが望ましい」などの意見がありました。また、市とは独立した立場で市民が中心となって火葬場の在り方を検討する「みよし市火葬場の在り方検討会」においても検討を重ねて



講演会の様子

いただきました。こうした現状については過去4回にわたって広報紙でお知らせし、アンケート結果などは、市のホームページで紹介しています。

近隣市町の考え

火葬場の今後の在り方を考える中では、近隣市町にも火葬場の運営や整備に対する考えを確認した上で検討を進めてきました。

まず豊田市に対しては、約2年間にわたって火葬事務委託の延長に向けた協議を行ってきましたが、行政財産共有の早期解消を望む考えは今後も変わることは

ないとの回答でした。また隣接する日進市と東郷町には、それぞれ単独で火葬場を整備する意向があるか、またみよし市を含めた広域整備についての意向があるかということを確認しましたが、日進市・東郷町共に「参加することは困難」「具体的な意向はない」とのこと

で、共同での設置は難しい状況となっています。

今まで通り古瀬間聖苑を利用することは(令和6(2024)年9月)

【みよし市 ▶ 豊田市】文書による意見照会

仮に、みよし市が豊田市に対して事務委託に関する費用負担の増額や、事務負担軽減のための職員派遣などを提案とした場合の、火葬事務の事務委託の継続に関する考えはどうか。

【豊田市 ▶ みよし市】文書による回答

仮に、みよし市から事務委託に関する費用負担の増額や職員の派遣などの提案があった場合においても、火葬事務の事務委託について継続する意向はなく、廃止を望む。また事務委託の廃止時期に関わらず、施設に係る財産の共有については早期解消を望む。

事務委託の廃止および財産の共有の早期解消を望む理由については、市民に対し安定した火葬を提供するため、長期的な施設の在り方や必要な施設規模・機能を検討する必要があり、速やかな意思決定や柔軟な対応を行うためにも単独で施設を所有・運営し、将来の施設の在り方について早期に検討を進めていくことが適切かつ最善であると考えているからである。この考え方については、令和4年(2022)年7月に協議を申し入れて以来数回にわたって伝えており、この考え方は今後も変わらない。

近隣市町との共同設置については(令和6(2024)年10月)

【みよし市 ▶ 日進市・東郷町】文書による意見照会

高齢化に伴い、全国的に死亡数が増加しており、火葬場のひっ迫は喫緊の課題となっている。火葬事務に関する今後の考え方について、

- ① 独自に火葬場を整備する意向はあるか
- ② みよし市を含めた広域で火葬場を整備する意向はあるか

【日進市 ▶ みよし市】文書による回答

- ① 独自で火葬場を整備する意向はない。
- ② 第6次日進市総合計画では、火葬場の整備について広域的な自治体間連携により検討するとあるが、現時点において検討段階に至っていないため、みよし市の提案に参加することは困難。

【東郷町 ▶ みよし市】文書による回答

- ① 独自で火葬場を整備する意向はない。
- ② 今後の需要を踏まえた上で検討する必要があると考えているが、現時点において広域での整備を働きかける具体的な意向はない。

市としての責任を果たすために

高齢化あるいは多死社会を迎える中で、火葬需要の増加に伴い火葬場がひっ迫することは避けられない事実です。こうした中で、市民の皆さんが落ち着いて亡くなった人をお見送りすることができる施設を作ること、市としての責任だと考えます。市として将来に

わたって市民の皆さんに安定的な火葬を提供するため、本市は市内に単独で火葬場を整備する方針を決定しました。今後は、火葬場の整備に向けて周辺環境・景観・交通利便性・災害リスクなど火葬場建設候補地の条件の検討を開始していく予定です。